

ひろしまの遺跡

第125号

県内初

環状に配置した土坑墓の発見！

—石鎚権現遺跡（福山市）—



環状に配置された土坑（西から）

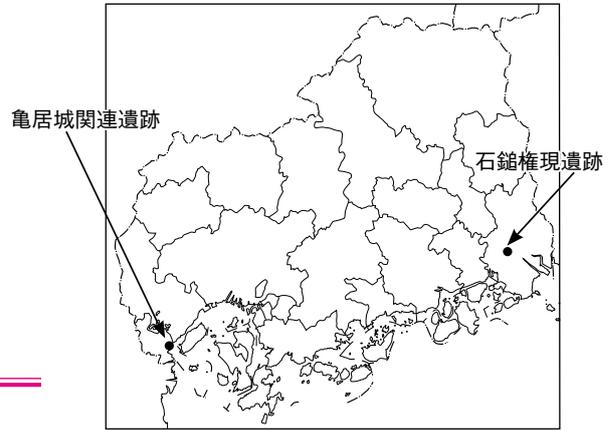


環状に配置された土坑（東から）

調査区内の最高所（標高58m）で、16基の土坑墓がみつかりました。これらの土坑墓は環状に配置されていました。中央付近には柱穴があり、建物があった可能性があります。広島県では、このように土坑を配置した墓群は初例で、今後の整理作業で類例調査を行います。

土坑の1基から鉄鏃が出土しています。埋葬形態が屈肢葬と考えられることから、環状に配された土坑墓は弥生時代中期後半頃より古いと考えられます。
(山田繁樹)

発掘調査速報



石鎚権現遺跡 (福山市駅家町)

調査期間 令和2年7月20日～令和3年1月29日

石鎚権現遺跡は、津之郷山守線（福山西環状線）道路改良事業に伴い発掘調査を実施しました。調査面積は2,230㎡で竪穴建物跡（9軒）や土坑（約50基）を確認しました。竪穴建物跡のうち、S I 3の床面には土坑が4基配置されたような状態で見つかりました。さらに貼床土を除去すると貯蔵用の穴が2基あり、貯蔵穴⇒土坑⇒竪穴建物跡の順に機能したようです。建物跡は柱穴が確認できた6軒のうち、4本柱が1軒、2本柱が4軒、はじめから無いものが1軒です。平面形は方形と隅丸方形です。S I 9は焼失したと考えられ、床面から柱材が見つっています。

貯蔵穴は5基見つかりました。そのうちの2基は、竪穴建物跡に伴うもので床面から深さ2mのものもありました。

出土した遺物は弥生時代中期後半から後期中頃のもので、後期の土器が多数を占めています。石鎚権現遺跡は弥生時代後期を中心とした時期の集落跡で、丘陵上に立地する墳墓群と建物跡の配置などが当時の集落のあり方を示していると思われます。今後、芦田川対岸の平地に立地する集落跡との対比などを検討する必要があります。



空中写真（南から）



S I 3内土坑（北東から）



S I 3内下層土坑（北東から）



S I 4内貯蔵穴



S I 9完掘状況（東から）



S I 9作業風景

② 亀居城関連遺跡(第3次) (大竹市小方)

調査期間 令和2年4月13日～令和3年3月12日

亀居城関連遺跡の発掘調査は、国道2号改築事業(岩国・大竹道路)に伴うものです。

亀居城については、関ヶ原の戦い後、慶長6(1601)年に広島城に入城した福島正則が、周防国・長門国に移封された毛利氏に対する守りとして、慶長8(1603)年に安芸国西端の小方に築城を福島伯耆守正宣に命じました。城は慶長13(1608)年に完成しましたが、慶長16(1611)年に廃城となりました。その後、城がある丘陵の東側には西国街道(近世山陽道)が通るようになり、『小方御城山図』(大竹市・和田世弘氏所蔵)には、街道沿いに町屋があった様子が描かれています。

平成26(2014)年の第1次調査と翌年実施した第2次調査で、地面に火を受けた痕跡が広範囲で確認されました。第1次調査では、火災のごみを捨てた穴から紀年銘のある硯などが出土しました。慶応2(1866)年の第二次幕長戦争による大規模な火災の跡と考えられます。また、第2次調査では、亀居城に関連する石垣の一部も確認されました。遺物は、近世以降の陶磁器や瓦、古銭などの金属製品などが大量に出土しました。

今回は第3次調査で、亀居城跡の東裾部から南裾部にかけて実施しました。東裾部の西国街道側調査区の上層には焼土面が広がり、幕末期以降と考えられる町屋跡を確認しました。数基の土坑とともに、埋甕や池状遺構などを検出しました。また、その南側の調査区からは、福島正則が築城した時期の亀居城に関係すると思われる高さ2.5m以上の石垣を確認しました。この石垣は、第2次調査で発見したものの続きと考えられます。遺物は、近世以降の陶磁器や瓦のほか古銭などの金属製品などが出土しました。

その他の調査区からは、西国街道や土坑を確認し、近世以降の陶磁器や古銭などの金属製品などが出土しました。また、亀居城跡の南裾部からは、近代以降と考えられる建物の遺構を確認しました。さらに、その下層から亀居城に関連すると思われる石垣を確認しました。石垣の石材には、亀居城跡の石垣と同じ刻印が認められます。

(恵谷泰典)



空中写真(南から)



石垣検出状況(南東から)



石垣検出状況(南から)



石垣の刻印

知られざるひろしまの遺跡探訪

例年は年4回開催していますが、新型コロナウイルス感染症拡大により、今年度は5・6月の2回が中止となり、秋の2回のみで開催となりました。多くの方に参加いただき、ありがとうございました。



観音寺跡の石垣



青古墳群



苦の坂



木野川渡し場

熊谷氏の史跡と青古墳群 (令和2年10月24日(土))

第1回は広島市安佐北区可部方面へ。太田川と三篠川の合流地点に位置し、交通の要衝であるこの地には、鎌倉時代に熊谷氏が入り、伊勢ヶ坪城、三入高松城を居城として治めていました。可部駅を出発し、別荘地があったと言われる藤ノ棚大神や、武田氏と熊谷氏が争った横川合戦跡地などを巡って、熊谷氏の墓所および菩提所観音寺跡へ。観音寺跡は長さ100mにも及ぶ石垣が残り、背後にある観音寺山城跡を詰の城とする、防禦機能をもつ寺です。大内義隆が尼子氏を攻める際、ここに宿泊したといわれています。熊谷氏の館跡である土居屋敷跡も見学しました。

昼食後は青古墳群へ！青古墳群は可部の街を見下ろす高台に立地しています。北西部の山頂には福王寺があり、かつて福王寺の山麓一帯には100基ほどの横穴式石室がありましたが、多くは宅地造成で失われています。青古墳群には4基の横穴式石室が残っており、いつもは入れない石室の中も見学しました。

帰りは神武天皇が舟を寄せたとの伝説がある舟山を見学し、河戸帆待川駅で解散しました。

西国街道を歩く－苦の坂を越えて－ (令和2年11月28日(土))

第2回は大竹市および山口県和木町へ。玖波駅から玖波の町並みを歩いて亀居城関連遺跡へ向かいました。玖波は幕長戦争時に町の大半が焼けてしまいましたが、直後に建て直された建物が今も残っていますが、途中、幕末に築かれた台場跡や亀居城の櫓跡などを見学し、亀居城跡(妙見丸)の中に建つ厳神社へ。長い石段を上った先からは亀居城関連遺跡がよく見えます。亀居城関連遺跡を後にし、再び西国街道を歩いて御園から苦の坂へ。苦の坂は山道の風情をそのまま残しており、歩くと江戸時代にタイムスリップしたような気持ちになります。

苦の坂を木野方面へ降りると、山口県と広島県の境界となっている小瀬川が見えます。小瀬川沿いをてくてく歩いて木野川渡し場へ。小瀬川は、広島では木野川と呼ばれており、木野川渡し場が周防と安芸を繋いでいました。その後もひたすら小瀬川沿いに歩き、ついに山口県和木町へ。和木町には幕長戦争にまつわる史跡が数多くあり、それらを見学しながら散策して和木駅で解散しました。(順田千織)

「報告書」を身近なものに

埋蔵文化財調査室では、発掘調査や分析を通して明らかになったこと、分かったこと等を文章や図、写真等を使って報告書にまとめ、印刷・発刊、保管をしています。

当調査室及び前身の（財）広島県埋蔵文化財調査センターが発行した報告書については、広島県内市町の図書館等に所蔵されています。

図書館まで出かけるのはちょっと……。そういう時には、インターネットで「全国遺跡報告総覧」と検索入力してください。ご自宅で全国の発掘調査報告書を見ることができ、たいへん便利です。遺跡探訪や講演会等に参加して地域学習を深める際の準備、研究等にご活用いただければと思います。「報告書」を身近なものに感じていただけたら幸いです。また「報告書」の他、全国の展覧会や講演会等のイベントについても紹介していますので、是非ご利用ください。



ご自宅から「遺跡見学会」へ

今年度の発掘現場での現地見学会は、新型コロナウイルス感染防止対策として、参加者の限定や分散という形で実施しました。そこで、発掘調査による成果を多くの方に共有していただけるように、現地見学会での説明や発掘現場の様子等を10分程度の動画にまとめました。短く、分かりやすく編集することを目標に、現地だからこそ分かるサイズ感や発掘を通して得られる面白さが伝わるように作成しました。埋蔵文化財調査室のホームページからご覧になれるように準備をしています。ご自宅から「現地見学会」へのご参加、お待ちしております。



コロナ禍により、「石鎚権現遺跡」の現地見学会は、参加者を地域の方に限定して行いました。見学会では、遺跡の解説と共に、解明できた遺跡の謎や未だ残る謎も紹介しています。見学会後も続いた発掘調査によって、謎が解き明かされる兆しが見えてきました。全ての調査内容、分析・研究結果は、今後報告書にまとめます。ご期待ください。

「亀居城関連遺跡」の現地見学会は、密集を避けるため、午前と午後2回に分けて行いました。あいにくの天候で、雨音や車の走行音が激しく、解説の声が聞き取り難い場面もあります。字幕を入れておりますので、ご理解ください。見学会では、亀居城関連遺跡と判断した根拠について、石垣を指し示しながら解説しています。見学会後からは、石垣を崩しながらさらに細かい調査を進めました。こちらの発掘は、来年度も続きます。



考古学 アラカルト 56

発掘された 西国街道



亀居城関連遺跡からは西国街道の路面がみつかりました。現在の調査区はもともと道路で、幕末の西国街道が最近まで道路として利用されていました。道路の東の海側は19世紀に埋め立てて整備された「増側町」で、山側にある町は「片側町」と呼ばれています。

西国街道は数回ルートを変えており、亀居城跡の東側の海沿いを通るようになったのは寛文年間(1661～1673年)頃で、それとほぼ同時期に片側町が成立したと考えられます。今回みつかった路面は、岩盤の上に直接石を積んで埋め立てたところを整地して造られており、石積から出土する遺物は概ね18世紀代のもので、増側町成立以前に整備されたことがわかります。何度か改修を行いながら幕末ま

幕末の西国街道よりも
山側を通っている。
路面の高さも低い。

何度も整備を行
いながら、幕末ま
で使われた西国街道



調査区南端部

で使用されたようです。調査区南端では幕末の西国街道よりも山側に別の路面がみつかり、さらに古い時期の西国街道と考えられます。亀居城関連遺跡は第3次調査を今年度実施し、来年度も調査が行われる予定です。

西国街道の発掘調査は貴重な調査例で、今後の調査や遺物の整理作業を進めることによって、より詳細が明らかになると期待されます。

もう一つ、調査された西国街道を紹介します。当調査室が平成12(2000)～14(2002)年に調査した近世山陽道跡・日向一里塚(東広島市西条町上三永)です。東広島県道路建設に伴い、約150mの範囲で調査を行いました。

調査範囲内の道幅は約3～4.5mで、当時どれほどの人が往来していたかわかりませんが、人が行きかうには十分な幅です。道路に付随する溝や石畳などはみつかりませんが、山側の土を削って谷側に盛り、叩き締めて路面を固めた様子が見えました。

日向一里塚は北塚と南塚の二基一組で構成され、平坦な道が坂道になる傾斜変換点に造られています。北塚は直径6.2mの円形で、高さは裾部から1.7mですが、路面に向かって傾斜する地形に造られており、道行く人からは見上げる高さがありました。裾部には貼石があり、北塚を全周していますが、道から見える部分は人頭大の大きな石をきれいに並べているのに対し、裏側となる部分は小さな石を組み合わせて造られており、街道を歩く人の目を意識していたと考えられます。南塚は一部流出していましたが、おおむね直径4mの円形で、裾部からの高さは1.2mでした。貼石は一部のみ確認できました。北塚・南塚ともに頂部に木が植えられていた痕跡は確認されていません。

日向一里塚は茅の市(本郷)から四日市(西条)間の街道途中にあり、四日市方面にある次の歌謡坂一里塚までは坂道が続きます。一里塚の横は、街道に沿って細長い平坦面となっており、旅人の休息地となっていたのかもしれませんが。

(順田千織)

註：近世山陽道跡・日向一里塚の調査および報告書刊行は当調査室が行いましたが、出土した遺物および調査図面・写真等はその後東広島市に譲与しており、今回使用した写真は東広島市教育委員会より提供を受けたものです。



日向一里塚・北塚(南から)



西国街道跡(中央部)と日向一里塚
(左が北塚、右が南塚)

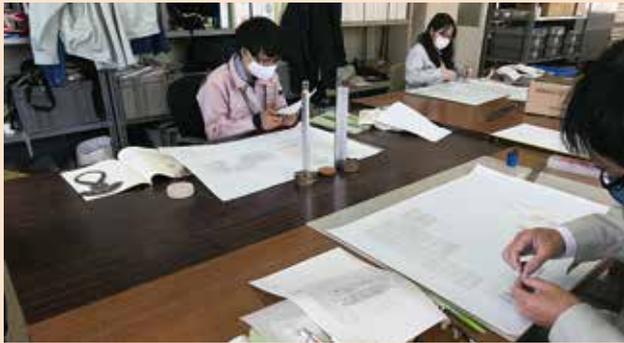


遺跡見学会の様子

発掘調査研修

当調査室では広島県教育委員会からの委託により、広島県内市町の文化財担当者を対象とした研修を行っています。研修には基礎課程と実習課程があり、今年度は10月20・21日に実習課程、11月25・26日に基礎課程を行いました。

実習課程では、遺跡現地で遺構の掘り方や実測、地形測量や写真撮影などを学びます。今年度は発掘調査中の石鎚権現遺跡で実施しました。基礎課程は考古資料の取り扱いや報告書の作成の流れなどを学びます。実習課程は6名、基礎課程は4名の参加がありました。(恵谷泰典)



基礎課程



実習課程

令和2年度の発掘調査報告書等を刊行しました。

ご希望の方は調査室へお問い合わせください。

	書名	市町名	概要	頒価
第87集	箱山第1・2号古墳	三次市	第1号古墳は、古墳時代後期の横穴式石室を持つ円墳である。石室内から、圭頭大刀や須恵器、玉類が出土している。第2号古墳は、葺石を持つ二段築成の方墳の可能性が高い。	600 (送料別)
第88集	<small>みずよけはま</small> 水除浜塩田跡	東広島市	遺跡のある三津湾の周辺は、近世から塩生産が行われていた。調査区からは溝状遺構が検出され、自然科学分析では塩田跡である可能性が指摘されている。	500 (送料別)
活動報告 第10集	令和元年度「ひろしまの 遺跡を語る」 ひろしまの遺跡2019 —報告と講演—	—	国立歴史民俗博物館名誉教授の春成秀爾さんによる講演「神武東征伝と考古学」と、令和元年度に当調査室が調査した遺跡についての発掘調査報告の全記録。	400 (送料別)
—	年報17	—	令和元年度における当調査室の実施した事業概要のまとめ。	—

あとがき

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、多くの行事が日程や内容の変更を行うこととなりましたが、発掘調査は滞りなく進めることができました。石鎚権現遺跡や亀居城関連遺跡などでも、貴重な発見がありました。暑い夏と寒い冬を乗り越えてきた現場の皆様、お疲れ様でした。

(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第125号

発行日 令和3年3月24日
編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町4丁目8-9
TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951
ホームページ <http://www.harc.or.jp/>
E-mail maibun@harc.or.jp
発行 (公財)広島県教育事業団
印刷 株式会社ニシキプリント

